



沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

文化

抗議書

山下 虎雄
酒井喜代輔 殿
酒井 清

あなたは今次大戦から今日に至るまで名前をいつわり、波照間住民をだまし、あらゆる謀略と犯罪を繰り返して来ながら、何らその償いをせぬどころか、この平和な島に平然として、あの戦前の軍国主義の亡霊を呼びもどすように三度来島したことについて、全住民は満身の怒りをこめて抗議するものであります。

あなたは、今次大戦中に学校の教師の仮面をかぶり、また国民を守るはずの軍人を装いながら、島の住民を守るところか住民を軍刀による抜刀威嚇によって極悪非道極まる暴力と横暴をふるまい、軍の命令といつわり、島の住民を死地マラリアの島へ医薬品等皆無のまま強制疎開させ、全島の家畜を日本軍の食糧に強要させ、全島を家畜の生地獄にさせ、またその後は食糧難とマラリアで全島を人間の生地獄にさせ、そのために家系断絶や廃家を続出させたほどの悲憤の歴史的事実を、あなたは忘れたのか。

我々住民はこの平和な島の歴史に、たとえ戦時中といえども、あなたの謀略による極悪非道な犯罪とその傷痕はこの島の歴史の続く限り忘れることはできない。当時、あなたの犯した行為は、あなた自身がよくわかるはずだが、あなたの書かせた秘密戦史 ③「陸軍中野学校」(昭和四六年発行)の一九七頁より二一三頁の内容はあなたの良心のひとかけらも疑われるように事実を曲げ、悪の限りをつくした非人道的な行為を反省するどころか正当化しようとする魂胆は卑怯千万の最たるものであり、全住民は怒り心頭に達し、絶対承服できるものではない。いかに言葉巧みに合理化し、その責任を逃れようとしても歴史的事実が真実であり、あなたの卑怯極まる謀略手段をつくしても、住民一人一人の脳裡に深く焼きつく傷痕は消えるものでなく、また真実を曲げて報道することは歴史に逆らうものであり、断じて許しておけない。

あなたが三度来島したことは、その犯罪を正当化し、真実を曲げるためのものであり、住民を愚弄するも甚だしい。また、あなたが戦前と変わらず軍国主義の謀略の手先となって暗躍するあなたの正体を見ぬき、再びこの島の平和を乱すものであることを考えると、我々住民や我々の子孫のためにも、その謀略を再び許してはならないことを決意し、ここに全住民は満身の怒りをこめて、あなたの来島を嚴重に抗議する。尚、今後我々の抗議に逆らって来島するようなことがあれば、如何なる事態が発生しようとも我々はその責任を負えないことを申し添えます。

昭和五六年八月七日

波照間公民館長 浦仲浩、公民館役員 石野友三、越地信一、加屋本正一、竹富町議会議員 崎枝政幸、仲底長幸、東盛弘佑、北部落代表 野原宏栄、南部落代表 加屋本善一、前部落代表 金武久吉、名石部落代表 波照間徹、富嘉部落代表 安里正、波照間老人会長 仲白保幸助、副会長 貝敷文雄、波照間婦人会長 新盛シゲ、副会長 波照間シゲ、波照間青年会長 内原正男、副会長 後富底周二、波照間区長 東迎正夫

波照間公民館長はじめ公民館役員4人、竹富町議会議員3人、北・南・前・名石・富嘉部落代表、波照間老人会長、副会長、波照間婦人会長、副会長、波照間青年会長、副会長、波照間区長ら19人の名前と押印のある抗議書は、全住民の意思を体現したものとなっている。(次回は1月後半掲載)

1981年の初夏、NHK特集「証言陸軍中野学校」を制作中の中田茂アテレクから、相談があるという電話をうけた。東京から直行してきた中田氏とは初対面だった。相談の内容は、『虐殺の島』(拙著)に登載している琉球大学教授だった元離島残置謀者・斎藤義夫氏を取材したいので、かれの情報を知りたいというところだった。私は、連載第14回目(3月15日)ですでに記してきた内容、つまり、かれがK場している琉球大学教授だった元離島残置謀者・斎藤義夫氏を取材したので、代わりに、波照間島に派遣されていた元残置謀者、山下虎雄についての証言を取材してはどうかと提案した。山下に対し、島人は恨み骨髄に徹する思いでいるはずだから、まずは住民か

ら多数の証言が得られるはずだ。そのうえでなら、山下虎雄への直撃インタビューが可能だろう。私ももちろん、夏季休暇中に波照間島の調査を予定していたところだったので、同行取材を勧めた。そして同年7月、NHKの4人からなる陸軍中野学校取材班と私、波照間島へ向かった。取材班のインタビューに応じるものと私は思い込んでいた。ところが、「最近、島の民宿に宿泊した。民宿を営む夫婦は、すでに『沖繩戦史第10巻』沖繩戦記録2で、島出身の玉城功一高材依頼を拒否してしまっ

た。戦時中の山下虎雄への恐怖心が悪夢のようによみがえっていたのだ。4人も取材班を波照間島入りさせた。私は「エライことになったと、うるた

さいわい、『陸軍中野学校』秘密戦史』に「スバ イ変じて救世主」「牛馬」千頭の焼肉」「白骨累々の病園部落」という見出しで掲載された、山下虎雄の証言に基づくルボのコピー(1965-2133)を持つ。たまたまそれをしてしまった私は「エライことになったと、うるた

波照間の元離島残置謀者

よみがえった悪夢

本人来島に島人抗議

退島要求

山下虎雄3度目の来島で島中大騒ぎになった。島人たちは急ぎ抗議文書を作成し、たまたま「退島」す

抗議書は西表島への住民退去命令について「全島を家畜の生地獄にさせ、また全島を人間の生地獄にさせ、そのために家系断絶や廃家を続出させた。我々住民はこの平和な島の歴史に、たとえ戦時中といえども、あなたの謀略による極悪非道な犯罪とその傷痕はこの島の歴史の続く限り忘れることはできない」と怒

り「あなたが三度来島したことは、その犯罪を正当化し、真実を曲げるためのものであり、住民を愚弄するも甚だしい」と強く批判している。